



2 学年通信

五所川原高校
令和6年10月

1 回目の卒業式と2回目の入学式

10月16日(水)のHR活動の時間に「1回目の卒業式と2回目の入学式」と銘打って学年集会を実施しました。私からは学年主任として、また皆さんの先輩としての思いを伝えました。終了後のアンケートに寄せられた感想を全員分読みましたが、皆さんが私の思いを汲み取ってくれたことが凄く嬉しかったし、何よりも今までの自分をありのままに受け止め、受験に向けて主体的に動き出す決意が記されていたことに感激しました。

学年団一同、皆さんの決意を尊重し、最後の最後まで寄り添うことを誓います。1年半後の卒業式で「やりきったと清々しい表情を浮かべる自分の姿」を思い描きながら共に頑張ろうではありませんか。

当日欠席して「1回目の卒業式と2回目の入学式」に参加できなかった人もいましたので、今回の学年通信では当日話した内容と、実は時間が無くて話さきれなかった内容を書き込みたいと思います。

当日話したこと(話したかったことを含む)

○修学旅行で添乗員さんに言われたこと

添乗員さんとの雑談の中で「行動制限や服装制限がかなり自由ですよね。」と言われました。夏服と冬服が混在していること、自主研修やUSJでの服装等の自由度(普段の学校生活以上の自由度)など、多様性を重んじる学年としては褒め言葉に感じました。それは皆さんと私たち教員との信頼関係で成立していることですので、修学旅行が終わってから修学旅行気分を引きずってこなければいいなあと少しだけ心配していました。しかし、今日の服装や行動を見ると皆さんの切り替える力に感激しました。つい数日前まで関西にいたことなど微塵も感じさせない落ち着いた姿。やるなあ。素晴らしいです。

○1回目の卒業式とは

この学年はここまでの一年半、県内のいわゆる進学校と呼ばれる学校としては勉強に対する圧力のかけ方を相当緩くしていました。勉強はとても大切ですからやるべきことは当然やってきましたが、入学早々から進学塾のような生活はさせませんでした。それは「五高は勉強ばかりでつまらない。勉強しなきゃいけないから使えない。」という地域の声を変えたかったからです。私は昨年この学校(母校)に転勤してきましたのですが、外にいて地域の様々な方から母校のことをそのように言われてとても悔しく、いつから母校はそんなことを言われる学校になったのかと悲しい気持ちでいっぱいでした。だからこそ、最初の一年半(修学旅行が終わるまで)は、主体的な活動を増やし、HR活動等で多様な人間関係を構築してもらい、部活動やボランティア活動など多くの経験を通して、この時期だからこそ飛躍的に伸びる豊かな感性を育んで欲しかったのです。この時期だからこそ品性や教養を磨き、将来のための財産にして欲しかったのです。そしてもう一つは皆さんに高校生活を心置きなく楽しんで欲しかったという思いがありました。この一年半、楽しい時も苦しい時もあつたと思いますが、納得できる高校生活が過ごせましたか。これで普通高校としての五所川原高校は卒業です。

○2回目の入学式とは

今日からは進学校としての五所川原高校に入学です。この学校に受験した時、面接で話したことを思い出してみてください。その時に話した内容と思いは皆さん一人一人の強い決意だったはず。もう一度そこに立ち返ってみてください。これまでの一年半は過去のことです。今からこの学校で何をするのか、が全てです。強いチームは「これくらいやって当たり前」のラインが高く、そのラインは教員が作るものではありません。自分たちの強い意志と結束でつくるものです。必ずできます。目標を実現させてください。

努力が将来の社会的な立場や給料等に大きな影響を及ぼす時期

皆さんは責任感が強くまじめな人たちなので、将来就職したら間違いなく与えられた仕事に全力で取り組むと思います。その取り組み方は、おそらくこれから1年半かけて取り組む受験勉強の大変さや苦しさなど比較にならないくらい高いレベルになると思います。このことは「今の状況に比べたら受験勉強の時の努力なんてたいしたことなかったよなあ。なんであの時もっと努力しなかったのだろう。」とつぶやく大人が多いという事実が証明しています。そしてもう一つの事実として、今の日本社会では受験の時とは比較にならないくらいの努力を社会人になってから3年や4年実践したとしても、社会的な立場や給料は思ったほど変わらない可能性が高いということです。逆にこれからの1年半をあきらめずに頑張り切ることができれば、将来の社会的な立場や給料は大きく変わる可能性が高いのです。個人としては日本のこのような傾向（いわゆる学歴偏重社会）はあまり好きではありません。しかし、だからといってこの事実から目を背けてあきらめる訳にはいきません。自身の将来のために全力を出し切る時が来たのです。やってやろうじゃありませんか。

偏差値が高い人と低い人の違い

偏差値50以上は最上位から50%以内です。では偏差値55は最上位から何%でしょうか。およそ30%です。偏差値60は15%、偏差値65は6%、偏差値70は2%程度です。皆さんの志望大学の志望学部学科を受験情報誌等で調べると参考値としての偏差値が記載されていますので、これから自分をどこまで高めたらよいのかはある程度イメージできると思います。これから勉強し、模試を受けて現状をチェックし、その結果を受けてまた勉強するという流れで自身の偏差値を上げて（学力を高めて）いくこととなりますが、今の自分の偏差値よりも高いところにいる見えない人たちの集団をどのようにイメージしていますか。何を伝えたいのかと言うと「世の中に天才はそんなに多くない」ということです。偏差値65を越えてくると知識の処理速度があきらかに速いなど学習に対する素質を感じる人が多くなってきますが、偏差値55から60くらいの集団に属する人と皆さんとの間に学習に対する素質的な差はありません。私は逆に皆さんの方が上ではないかと思っています。都会の高校生は学歴偏重社会に対応するために小学校の頃から学習塾に通い、小学校・中学校受験などを経験しながら、自身の限界付近まで頑張っています（やらされている人も多い）。反面、皆さんはまだ限界付近まで努力していないことをアンケートに回答してくれています。よって、偏差値55から60くらいの集団との差は「本気で取り組んでいるかどうかの違い」でしかないのです。だから今から1年半本気で取り組んでみてはどうかと提案しています。本気でやればやるほど驚くほど伸びていくポテンシャルを皆さんは持っています。やってやろうじゃありませんか。

皆さんが新しい五高のスタイルを創る

皆さんはこの1年半、普通の高校生活を自分なりに満喫してくれたのではないかと思っています。だからこそ、これから始まる進学校としての3年0学期を納得して受け入れてくれると思っています。自分の成長する姿にワクワクしながら、目標を達成するために目の色を変えて取り組む集団のことを想像すると、私たち教員もワクワクしますし、今まで以上にやろうという気になります。

一つお願いがあります。それは皆さんに新しい五高のスタイルを創って欲しいということです。「最初の1年半はしっかりと勉強しつつも、普通高校としての高校生活を満喫し、修学旅行を境に残りの1年半は抜群の集中力で学力を高め、希望進路を実現する進学校」というスタイルを皆さんに実現して欲しいのです。そうすれば中学生や地域の方々が持っている「五高は勉強ばかりでつまらない」というイメージを覆すことができます。そして、イメージを覆すことができれば、五所川原高校に入学したい中学生や入学させたい地域の方々が増えると思うのです。私はこのことを皆さんに託しています。この学校のスタイルを皆さんに変えて欲しいと強く思っています。

発揮するのは今

皆さんには凄いポテンシャルがあります。この1年半、教科や部活動、行事など、様々な活動を通して皆さんをずっと見てきましたし、関わってきました。ですから皆さんの持つポテンシャルの凄さを誰よりも知っています。持っている力を発揮する時が来ました。発揮するのは今です。